

永年勤続者の表彰

昭和48～49年度に永年勤続者として表彰された職員は、下記の19氏である。

勤続年数	昭和48年度		昭和49年度	
	官職	氏名	官職	氏名
40年	技	安田 貞男	技	大久保 司
30年	事	熊谷 一雄	〃	棚田 清
〃	技	田丸 高夫	〃	中村 永一
〃	〃	長沼 市郎	〃	永江 敬二
〃	〃	小山内 恭治	〃	毛利 芳勝
〃	〃	小山田 博	〃	野村 毅
〃	〃	平田 純正	事	友田 希世
20年	技	徳井 利信	事	角森 隆夫
〃	〃	松葉 正治		—
〃	〃	原田 実		—
〃	事	竹村 貞雄		—
計		11名		8名

昭和50年度予算決る

昭和50年度予算の大蔵省内示が、新春を迎えたばかりの4日に各省庁に行われた。

当場の内示額は下表のとおり8億371万4千円と前年度に比べ115.5%の伸びで8億台を突破した。これを項目別にみると、

1. 人当経費

既定定員は155名であるが、業務量オーバーと1人1人解消を目的として、年次計画的(4年計画)に17名、当初年度である昭和50年度には3名の新規定員要求をしたが、定員削減計画が推進されるなかでは、一切の定員要求が認められなかった。

しかし、削減については、当場の実態を強く訴え続けた結果もあり、0査定となったことは、厳しい現状を考えるならば大きな収穫

であり、前年通り155名で運営することになった。

金額では、ベースアップ充当5%分を含め、前年度予算に対し、9,600万円の増となった。

2. 運営事務費

49年度より1,944千円の増であるが、前年度認められた下水水洗設備費を50年度は要求していないので実質的には7,390千円の増となった。内容では電灯電話設備費と各所修繕費が大巾に増加した。

3. 事業費

49年度より25,666千円の増であるが内容は新規事業として稚魚輸送放流費が認められ、この他は賃金・餌料の単価アップ及びふ化用水水量調査費等が主なものである。

4. 調査試験費

49年度より2,641千円の増であるが、内容は新規調査項目として環境調査費が少額ではあるが認められ今後この調査に期待するところが大きい。その他は賃金の単価アップ、旅費の増等である。

5. 施設費

50年度施工が認められた場名は中標津ふ化施設の継続分、知内事業場のふ化施設、静内事業場養魚施設の一部であり、数年間に亘って要求しつづけて来た根室支場庁舎の新設費は本年度も認められず庁舎新設費要求の難かしさが痛感された。

なお施設費は49年度より18,104千円の減となっているが49年度予算決定後に上記額とほぼ同額のものが49年度に増額され現在施工中なので、これを含めるとほぼ前年度程度の予算規模となっている。

昭和50年度予算大蔵内示額

区 分 項 目	前年度 当初予算額	50年度 要 求 額	50年度 決 定 額	前年度比較 増 △ 減	同 左 百 分 率
	千円	千円	千円	千円	%
人 当 経 費	339,493	332,003	435,493	96,000	128.3
運 営 事 務 費	27,041	50,326	28,985	1,944	107.2
事 業 費	156,839	227,428	182,505	25,666	116.4
事業運営費	63,366	103,946	70,226	6,860	110.8
親魚捕獲費	12,998	14,733	13,297	299	102.3
稚魚飼育費	54,564	66,524	63,332	8,768	116.1
降河稚魚保護費	4,782	5,884	5,294	512	110.7
河口通過稚魚観測費	2,471	2,935	2,720	249	110.1
種卵移殖費	2,038	2,173	2,077	39	101.9
ベニさけ生産費	6,648	8,203	7,606	958	114.4
さくらます資源拡大 再生産対策費	7,912	9,778	9,176	1,264	116.0
ふ化用水水量等調査費	2,060	3,219	3,090	1,030	150.0
稚魚輸送放流費	0	6,810	5,686	5,686	—
調 査 試 験 費	7,426	17,285	10,067	2,641	135.6
増殖基礎調査費	3,769	5,460	4,440	671	117.8
沿岸水域調査費	3,507	7,276	3,732	225	106.4
さけます増殖環境調査費	0	3,904	1,745	1,745	—
調査報告等印刷費	150	645	150	0	100.0
施 設 費	164,768	879,211	146,664	△18,104	89.0
合 計	695,567	1,506,253	803,714	108,147	115.5